

# 日中の近代化どこで分岐したか

私たちは、他者が自分をどう認識し、評価し、対応するのかに応じて自己のありようを悟らされ自我形成をつづける。自己は自己を通じて直接的に観察されるのではない。自我は他者の目の中に宿る自己を間接的に確かめながら形成されていくものである。

## 岩倉使節団の欧米派遣

日本は江戸時代を通じて平穩に過ごし、成熟した社会と文化をつくりあげてきた。しかし、この平和の中で欧米列強に競合し得る産業力や軍事力を整えたわけではない。「海洋の共同体」としての日本は、四方を海で囲まれ、海に守られて外敵の存在を意識すること

少なく、国内の統治に万全を期していけば平和はおのずと守られてきた。幕末まではそつであった。この時代、自己とは何かという自意識ははつきりとは形成されなかった。

アヘン戦争によって大國・清國の国土が列強により蚕食されていくさまに驚かされ、ペリーの黒船来航により強烈なインパクトを受けて、日本の指導者は新しい自我

形成を余儀なくされた。列強の目に映る日本は文明国ではない。だからこそ不平等条約を押し付けられたのだ。危機から日本を脱出させるには、主権国家としての内実を整備し、みずからが文明国となるより他に道はない。そういう新しい自我が形成されたのである。

他者を正確に認識し、そこから新しい自我を生み出そうとする意志において明治維新期の指導者にはきわめて強いものがあつた。そのことを端的に示すものが岩倉使節団の欧米派遣である。その全記録が随行した久米邦武による『米欧回覧実記』となつて今に残る。太平洋を経て米大陸を横断し、大西洋を渡って英国に入り、欧州各國を歴訪、スエズ運河、インド洋、マラッカ海峡を抜けて日本にいたるといふ軌跡である。

幕末に強圧的に結ばれた不平等条約の撤回要求も、使節団の目的であつた。しかし、最初の訪問

## 正論



拓殖大学顧問

渡辺 利夫

國の米國で条約改正は時期尚早であることにすぐ気づかされる。条約改正には国内統治を万全なものとするための法制度の整備が急務である。欧米列強と対等なレベルの文明国とならなければ改正は困難だと悟らされたのである。

大陸横断鉄道、造船所、紡績工場、倉庫、石畳、水道、博物館、図書館、ガス灯、ホテル、アパート、総じて産業発展の重要性を悟らされ、さらには共和制、立憲君主制、徴兵制、議會制度、政党政治、宗教など文明のありとあらゆる側面について学んで帰國。使節団の実感を一言でいえば、文明國のもつ文明の圧倒的な力量であつた。その後の殖産興業・富國強兵政策が、さらには憲法と議會制度が次々と実現されていったのは、岩倉使節団の体得した知恵があつたからにちがいない。

### 清は衰退から立ち直れず

アヘン戦争での敗北、長江流域を中心に広く各地で蜂起した宗教団体の反乱の收拾過程で、王朝末期の清國は急速に衰退していつ

た。この衰退を押しとどめんと、曾國藩、李鴻章、劉銘伝らの官僚政治家により近代化運動が展開された。「洋務運動」である。この運動の中心的なスローガンが「中体西用」であつた。中国の文化、倫理、制度の根本がつまりは「一体」であり、これは変えることなくむしろ「一体」を補強するため西洋の學術、技術を利用すべきだとされた。「中学を体と為し西学を用と為す」である。高度の技術を生み出した文明それ自体への関心は薄かつた。

末期の農民反乱で著しく衰弱、孫文の辛亥革命を経て王朝は瓦解、新たに國民黨により共和制の中華民国が成立したものの、ほどなく國共内戦に巻き込まれてこれも潰えた。内戦に勝利した共産党により1949年に中華人民共和國が成立。しかし毛沢東による苛烈な専制政治、大躍進政策の無残な失敗、狂気の文化大革命により中国が立ち直ることはなかつた。

### タイトロップ上を歩く独裁者

日清戦争での敗北は、清國に特強い衝撃を与えた。この戦争に勝利した日本の文明開化に範を取り、議會制を基礎とする立憲君主制の樹立をめざす「変法自強」が康有為、梁啓超らによって主張された。2人の主張は光緒帝を動かした。「國是之詔」として発せられた。しかし、西太后を中心とする保守派による「戊戌の政変」と呼ばれる弾圧を受けて変法自強は挫折。康有為、梁啓超は日本への亡命を余儀なくされた。

日中近代化の分岐点はこのあたりであつた。その後の清國は王朝後、プラグマティスト鄧小平の登場により改革開放政策が始まり、中國經濟の顯著な成長が実現されたものの、早くも2012年には中國政治の専制的権力が新しい独裁者習近平の手に落ち、中國政治の全権が習近平という一個人の手に帰することになった。おそらく習近平は、終身にわたり独裁をつづけ、圧倒的な個人的専制という実に不安定なタイトロップ(綱)の上を歩んでいくのであろう。その先の中國をどんな運命が待ち受けているのか。不気味である。

(わたなべ としお)